

復活節第5主日

2017年5月14日

梅崎隆一神父（クラレチアン宣教会）

第一朗読 使徒6・1－7

第二朗読 一ペトロ2・4－9

福音朗読 ヨハネ14・1－12

ユダに裏切られ苦しみが間近に迫ってくる中で、イエスはこの話を弟子たちに語っています。

人はいつも人生を順風満帆な状態で船旅をするようなものではなく、社会情勢や政治、人間関係の嵐の中で翻弄されます。

そんな中で、イエスは自分がどうやったら生き残れるか、自分の敵をどうやった滅ぼすことができるのかと考えません。人とはもっと大切なことのために生きることができるのではないかとわたしたちに示されます。そのためには、住む場所を用意する必要があると考えておられたようです。

イエスは人の住む場所を用意すると言われますが、それは神のお住みになる場所でもあると言われます。

神と人とが共に住む場所は、神殿でした。しかし神殿はローマ軍によって崩壊しました。この福音が書かれたときには神殿もなくなって、ローマに対する抵抗運動もありました。しかし、ヨハネ福音書を書いた人は仕返しを考えていない。

神は人間が作ったところではなく、神がお造りになったところに住むと言われました、「神殿を壊してみよ、三日で建て直す」。その神殿とは、やがて命の水をこの世界に育んでいく。その水とはサマリアの女が求めた水であり、その水は「人の内で泉となり、永遠の命にいたる水が流れ出る。」（ヨハネ4，14）

キリストを信じる者は人の内から生きた水が川となって流れ出る。人の中から永遠の命をわき出させる時に、わたしたちはキリストのように父を示す者となる。

聖霊によって生きた神殿となったわたしたちが、社会や世界や人間関係の解決を人間の力ではなく、神と共に行うことで、道、真理、命をこの世界に示すことができますように。